

覺勝寺だより

慈光照護のもと、門徒各位におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、覺勝寺護持運営にあたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。さて、令和二年は、コロナ禍の中で法要等の諸行事が中止になるなど、門徒の皆様には覺勝寺にお参りいただきお機が滅り、ご心配をおかけいたしました。真宗門徒としての大事なお勤めが、少しでも早く元の状態に戻ることを願うものであります。



今年も一ヶ月あまりとなりましたが、今年一年門徒の皆様には何かとお世話になり、ありがとうございます。良いお年をお迎えください。

合掌

第十回総代会報告事項

一、元旦会について

元旦会は、三密(密閉・密集・密接)を避ける観点から、二部制にして執り行います。マスク着用と手指消毒にご協力ください。

- 一月一日(金・祝) 十三時三十分から
- 一月一日(金・祝) 十五時から

二、門徒総会について

年間計画では、二月十四日(日)に予定していましたが、門徒総会について、開催是非や開催方法について、今後の新型コロナウイルス感染状況や犬上組の方針等を踏まえ、判断していきたいと考えています。



元旦会の勤修

一、日時

令和三年一月一日(金・祝)

十三時三十分から

(七班・十班・他所)

十五時から

(一班・六班)

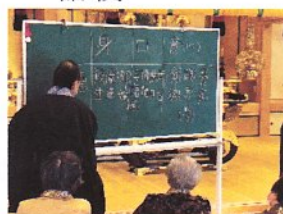
一、勤行 讚仏偈

一、法話

田中康勝住職代務

定例法座開催

十一月八日(日)に開催しました定例法座には、十三名の門徒の皆様がお参りいただきました。田中住職代務による讚仏偈の勤行と法話をさせていただきました。法話は、「アメリカ合衆国大統領選挙から、「寛恕(かんじょ)」(心が広くて思いやりのあること)から始まり、仏教の教えである十悪(殺生・偷盜・邪淫・妄語・両舌・悪口・綺語・貪欲・瞋恚・愚痴)について、身・口・意の三業と関連付けて、わかりやすくお話いただきました。



「除夜の鐘」撞き実施

【日時】十二月三十一日(木)

十三時三十分集合

【場所】覺勝寺 鐘撞堂

【その他】門徒の皆様並びに町内の皆様には梵鐘を撞いていただきます。

お子様には、お菓子を用意する予定です。是非ご参加ください。

坊守さんが、十月末日より市立病院に入院され、現在リハビリ中です。お寺はしばらくの間留守になりますので、ご承知おきください。

坊守さんが、十月末日より市立病院に入院され、現在リハビリ中です。お寺はしばらくの間留守になりますので、ご承知おきください。

覺勝寺行事予定

◎定例法座

十二月六日(日) 十四時から

◎年末寺掃除

十二月十三日(日) 九時から

※男性は鎌を、女性は雑巾をご用意ください。

◎元旦会

一月一日(金・祝)

十三時三十分から

十五時から

滋賀教区・犬上組 行事予定

○合同研修会

二月二十日(土) 圓明寺

十三時三十分から



浄土真宗 本願寺派
圓鏡山 覺勝寺
彦根市開出今町 258

田中康勝住職代務 連絡先
本光寺 彦根市八坂町 1318
TEL&FAX : 28-0572

《総代連絡先》
北川善雄 25-0660
尾本 博 28-1436 西崎文雄 28-8104

領 解 文

本文は真宗教義を会得したままに口に出して陳述するように、第八代宗主蓮如上人が作られたものとされ、山科本願寺落成（1483年、蓮如上人69歳）の頃から読むようになったと言われ、浄土真宗の正義をあらわしたものである。

又、領解文は下記の様に、4つの文章からなっている。

○もろもろの雑行・雑修・自力の心をふり捨てて、「一心に阿弥陀如来、われらが今度の一大事の後生、御たすけ候え」とたのみ申して候。（一）安心の段

（一・口語訳）わたくしは、さまざまな計らいをまじえた自力の心を投げ捨てて、「阿弥陀如来さま、わたくしの来るべき浄土往生の一大事について、あなたの救いの働きにおまかせします。」と、ただ一心に頼みにいたしております。

○たのお一念のとき、往生一定・御たすけ治定とぞんじ、この上の称名は、御恩報謝と存じよろこび申し候。（二）報謝の段

（二・口語訳）如来におまかせしたとき、往生成仏の身と定まり、如来の救いは確定したと信じて、その後の称名念仏は、如来の御恩に報いるものであると、喜びのうちにお称え申しております。

○この御ことわり聴聞申しわけ候こと、御開山聖人（親鸞）御出世の御恩、次第相承の善知識の浅からざる御勸化の御恩と、有難くぞんじ候。（三）師徳の段

（三・口語訳）この「信心正因・称名報恩」の道理が、聞き分けられたことも、浄土真宗を開かれた親鸞聖人が、この世におでましなされたおかげ、また、その後代々、教えをひき継がれたよき導き手の方がたのお勧めのおかげであると、ありがたく存じております。

○この上は定めおかせらるる御掟、一期をかぎりまもり申すべく候。（四）法度の段

（四・口語訳）このように念仏申す身となったからには、定めおかれた御きまりは、生涯守り通す決心であります。

*後生の一大事の解決が、仏教を聞く目的なのです。

では、後生の一大事とは何かといたしますと、後生とは後に生まれると書くように、死後のことです。私たちは、誰もがやがて必ず死ななければなりません。

死は100%確実な未来です。油断してはなりません。

領解：念仏のいわれを正しく聞き分け、疑いがはれること。

正義：正しい意義。